

平成29年度 第1回福岡市農林業振興審議会

〔日 時〕 平成29年8月30日（水）10：00～11：50

〔場 所〕 鮮魚市場会館2階 第1会議室

〔出席者〕 ◇ 福岡市農林業振興審議会委員 18名
鬼木会長，石川会長職務代理者，甲斐委員，深川委員，大石委員
佐藤委員，丸小野委員，濱砂委員，川上委員，江藤委員
綿貫委員，堀内委員，大神委員，安部委員，原委員，横田委員
柴田委員，新開委員

※ 欠席 4名
矢部委員，金子委員，津田委員，笠委員

◇ 市関係者 11名
則松農林水産局長，中田総務部長，黒田中央卸売市場長
河口農業委員会事務局長，出利葉総務課長，中牟田政策企画課長
稲吉農業振興課長，藤間森林・林政課長，栗崎農業施設課長
平田市場課長，三宅青果市場長

〔傍聴者〕 なし

〔次 第〕 ◇ 議題（1）福岡市農林業振興施策について
○ 農業を取り巻く情勢と福岡市の現状
○ 森林・林業を取り巻く情勢と福岡市の現状
◇ 報告（1）平成29年度重要施策及び新規事業について
◇ その他

開会

【事務局】

開会の時間になりましたので，ただいまより「平成29年度第1回福岡市農林業振興審議会」を開催いたします。

私は本日の進行を務めさせていただきます農林水産局総務部長と農林部長を兼務いたしております中田でございます。よろしく願いいたします。

まず，はじめに，本日は委員22名中，矢部委員，金子委員，津田委員，笠委員が所用によりご欠席でございますが，過半数以上18名のご出席をいただいておりますので，審議会規則第9条第2項の規定により，本会議が成立いたしますことをご報告申し上げます。

続きまして，本年2月に開催いたしました審議会以降，4名の委員の交代がございましたので，ご紹介いたします。恐れ入りますが，呼ばれた方はご起立をお願いいたします。

(委員の紹介)

次に、農林水産局職員につきましても、4月に人事異動がございましたので、改めて紹介させていただきます。

(農林水産局職員の紹介)

それでは、審議に先立ちまして、福岡市農林水産局長 則松から、ご挨拶を申し上げます。

(農林水産局長挨拶)

議題

(1) 「福岡市農林業振興施策について」の「農業を取り巻く情勢と福岡市の現状」について

【事務局】

それでは、議事に入らせていただきます。

会議の議長は、審議会規則第9条第1項により会長が務めることとなっておりますので、これからの議事進行を鬼木会長にお願いいたします。

【会長】

会長の鬼木でございます。

(会長挨拶)

それでは、次第に従いまして、議事を進めさせていただきます。

全体の進め方ですが、福岡市農林業振興施策について、農業と林業に分けて説明・審議を行い、続いて、平成29年度重要施策及び新規事業について報告いただいた後、質疑を行います。

本日の所要時間は、全体で1時間30分程度を予定いたしておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

それでは、まず福岡市農林業振興施策について、農業部門の説明を事務局よりお願いいたします。

(事務局より説明)

【会長】

ただいま事務局の方から福岡市の農業振興施策の取組みについて説明をしていただきました。

それでは、皆様方のご意見を受けたいと思います。日頃お考えになっているようなご意見がございましたら、どうぞ出して頂ければと思います。

【委員】

2016年度版の食料・農業・農村白書の中で、今年の特徴は、過去10年間の農業構

造の変化が特集で発表され、販売農家数が 32%減少、総農家数も 24%減少、基幹的農業従事者数も 22%減少していて、しかもその 47%以上が 70 歳以上となっています。一方、法人経営体はこの 10 年間で 2.2 倍ぐらいになっていますが、増えているところは、一握りの大きなところで、圧倒的多数の小規模の家族経営などが、どんどん減ってきているんじゃないかと思います。その辺り、福岡市はこの 10 年間でみたらどう変化しているのか、お尋ねします。

【事務局】

福岡市の農業従事者の推移につきまして、5 年間のデータで述べさせていただきますと、平成 24 年が 4,163 人、平成 25 年が 3,976 人、平成 26 年が 3,798 人、平成 27 年が 3,543 人、平成 28 年が 3,368 人、5 年間で約 19%減少しているという状況でございます。農業の担い手の高齢化、担い手不足につきましては、国と同様、福岡市も課題認識を持っておりまして、新規就農者の支援や、農山地域における新たな担い手の確保・育成に向けた取組みを進めているところでございます。

【委員】

今の農政を見ていると、農業生産系の主な担い手を法人とか企業にどんどん移して、家族経営を切り捨てる方向になっているという不安が農業白書を見て思いました。法人がダメとは思いませんが、経営体や規模に関係なく、皆農業の担い手なんだということで、農業に従事している全ての方々、農家を維持していくという事に力を入れていかなければいけないと思います。そういう観点から、小規模農家が減っている現状をどう考えていますか。

【事務局】

農業従事者を支えていく仕組みにつきましては、現在、福岡市と J A 福岡市、J A 福岡市東部において、全ての農業従事者をしっかりと福岡市全体で支えていく取組みをしていかなければいけないという事で協議を進めております。ご意見をしっかり受け止めながら、取り組んで参りたいと思っております。

【委員】

表記の仕方について、分かりにくいので、全国の時には「全国の農業を取り巻く情勢」と記載し、福岡市の現状と国を区別できるようにしていただきたい。

【事務局】

次回より改めさせていただきます。

【委員】

29 ページ、野菜の生産額について、平成 27 年まで増加していて平成 28 年に減少している理由は、生産額の減少の始まりなのか、たまたま平成 28 年がそうだったのか。同様に、花き、果樹についても減少に転じているので、減少の理由を伺います。

【事務局】

平成 28 年 9 月中旬の長雨、台風の影響により、農作物の生育不良が生じ、生産

量・生産額が減少しているものでございます。

【委員】

「5年後の目標」の進捗状況の増減の表し方について、現状値の28年度から目標値の33年度を差し引いているが、これは少し自虐的すぎると思います。27年度から28年度にかけてどのくらい進捗しているかがわかればいいので、33年度の目標にまだ到達していないのは当然のことだと思います。

【事務局】

次回より改めさせていただきます。

【委員】

P20 農地等の保全・活用の福岡市の現状ですが、平成28年の耕作放棄地が377ha、そのうち復元・利用可能な耕作放棄地が21ha、残り356haが復元・利用不可能という事ですが、これは農業委員会法の改正により、福岡市は農業委員会で現地を見る事が増えたのかどうかですね。耕作放棄地が増加する原因を調べ、耕作放棄地になる前に市の方で対策がないものかお聞きしたい。もう一点、P25の多面的機能支払交付金事業と中山間地域等直接支払制度について、活動組織がそれぞれの制度で重複しているところは、二つの制度から交付金が頂けると理解していいでしょうか。もしくは、基準があるのかお尋ねします。

【事務局】

福岡市の耕作放棄地につきましては、面積が平成28年377haとなっております。農業委員会法の改正のお話が出ましたが、今年度から農業委員会では農業委員とは別に現場で調査等を行う農地利用最適化推進委員が設けられました。現在、農地利用最適化推進委員により、福岡市内の耕作放棄地の状況調査を行っており、今後、所有者の意向調査を実施いたします。市と農業委員会が連携し、耕作放棄地の解消に向けた取組みは今年度の重要な課題として取り組んでおり、活用可能な耕作放棄地については、情報発信をしながら、就農希望者等とのマッチングというものを進めていきたいと思っております。

【事務局】

多面的機能支払交付金と中山間地域等直接支払制度につきましては、交付対象となる活動が重複するところがございます。同じ活動の場合は、まず、多面的機能支払交付金を先に交付します。多面的機能支払交付金を交付し、予算不足で払えない部分については、中山間地域等直接支払制度で支払うなど、重複して交付する事がないよう、きちんと分けております。

【委員】

農業委員や農地利用最適化推進委員について説明をお願いします。

【事務局】

農業委員会等に関する法律の一部改正につきましては、平成28年4月1日から施

行されております。主な改正点といたしましては、農業委員会業務の中で、今まで任意の業務だった農地利用最適化の推進業務について、法定必須業務とされたことです。具体的に申しますと、耕作放棄地の発生防止や解消に向け、新規参入者の促進、担い手への農地利用の集積・集約化を推進していく活動を「農地利用の最適化の推進」として、農業委員会等に関する法律の中で最重要業務に位置付けております。それを具体化するための組織づくりとして、農業委員の公選制から、市町村長が任命する任命制に変更になっております。福岡市におきましては、今年の6月23日に19名の農業委員を市長が任命しております。また、農地利用の最適化の推進のための取組みとして、現場活動を主に担う「農地利用最適化推進委員」を農業委員会が委嘱することを法律で規程されていることを受け、今年6月29日に27人委嘱しております。農地利用最適化推進委員の業務ですが、7月から8月にかけて、市内の農地を一筆ごとに利用状況調査を行い、きちんと耕作されているか、あるいは山林化、原野化によって再生が困難ではないか等の判定をしています。現在は、その判定を踏まえ、耕作可能な農地、少し手を入れれば耕作可能な農地、耕作が難しい農地の3種類に分類する作業を行っているところです。耕作が難しい農地については、非農地判断を行い、農業委員会で管理している農地台帳から非農地判断をした農地をはずします。

8月に農地利用状況調査を行い、11月に遊休農地の所有者に対して利用意向調査を法律に基づいて行います。自分で耕作するとか、農地中間管理機構を利用するとか、自分で担い手を探すなどの項目があり、来年1月末を締切として照会します。

6月にスタートしたばかりの体制でございまして、農地利用最適化推進委員27人のうち13人は農業委員を経験された方がいらっしゃいますが、半分以上は初めての方ですので、研修を行い取り組んでいるところでございます。

【委員】

農地利用最適化推進委員は、農業の経験がない人でもなれるんですか。それから、耕作放棄地になると非農地証明がすぐいただけるような緩和措置があるんですか。例えば耕作放棄地が藪のようになったところは非農地という事で証明が取れ、緩和されるんですか。

【事務局】

今回委嘱した農地利用最適化推進委員は皆さん農業従事者で、農地利用状況調査により原野化していると分類した農地は、農業委員会総会に諮って、非農地判断を行い、法務局や関係機関に非農地について通知を出します。固定資産税は現況主義ですので現況どおりで課税されます。

【委員】

農地利用最適化推進委員は、農業従事者しかなれないのですか。

【事務局】

農業従事者しかなれないということではございません。委嘱にあたって公募を行い、

農協など関係団体から推薦をいただいています。結果として、皆さん農業従事者の方となっています。農業委員については、半分以上は認定農業者でないといけないという決まりがございます。

【委員】

P7の女性農業者の視察研修会について、福岡市として、研修や視察だけでは女性農業者の育成として足りないと思いますので、工夫された方がいいと思います。

それから、福岡県花卉農協から講演の依頼をされた時、主婦を対象に「週に何回花を買うか」、「月いくら位、花を買うか」といったデータを取り、講演を行いました。言いたいのは、何をどのくらい作ったという、入口については述べられていますが、出口である流通の部分についてデータがないのかなと思います。例えば野菜の販売所がこのくらい増えて需要が高まっているとか、そこで求められている消費者の望むものとマッチングしているのか等、需要と供給がうまくいっているのか、実は望まれていないものを作っているかもしれない等、流通の部分や、末端のデータがあった方が良くと思います。

また、将来的に、平成33年には生産が増えていく目標としていますが、これから生産人口が減っていく中で、本当にこんな希望的数字になるのか、外国人労働者を流入するのか等、そういうところまで考えていかないといけないくらい人口が減っていく事を私は大変懸念しております。ですから女性農業の研修の内容の工夫や、流通や出口に係るデータがあれば良いと思いました。

【事務局】

まず、女性農業者の研修でございますが、福岡市では、女性農業者ステップアップ事業を実施しております。農業に興味を持つ女性、特に6次産業化に取り組んでみたいという女性を公募し、6次産業化専門のプランナーによる講演を実施しています。また、新開委員を始め7名の方に、昨年「福岡市女性未来農業サポーター」にご就任いただいておりますが、サポーターの皆様にも、女性農業者の育成に取り組んでいただいております。体験談を話していただいたり、農業女子ガイダンスの参加者が現場で直接指導を受けるといった事でサポーターの方に受け入れていただく等、研修後に実践をするという事業も行っています。

花きにつきましては、昨今、若年層が花を買わない傾向があり、特に福岡の花の消費量は非常に低い状況です。福岡市では北崎が花の産地で、フラワーアレンジメント教室「お花の学校 北崎キャンパス」を天神で開催したり、福岡市と福岡県花卉農協で連携し、福岡市内産の花きの輸出を促進するため、花き海外プロモーション事業を平成26年度から実施し、福岡市内産の美しい花きを香港でPRしているところでございます。

【委員】

先ほど、委員からもありましたように、流通関係も重要だと思います。福岡市で栽

培している品目も、生産安定事業に入っていますが、安定的に消費を増やすという事で、現在福岡県と福岡県花卉農協が一緒になって「ウイークエンドフラワー」に取り組んで今年で2年目になります。また、花きの消費についていつも言われますが、福岡県の生産額は愛知、千葉に次いで全国で3位となっています。一方で消費は全国のなかでも下位に位置しています。個人的な消費では、今言ったように伸び悩んでいる状況ですが、業務関係や冠婚葬祭などを入れましたら消費はもっとあります。統計の取り方によって全然違うんです。今年、鹿児島が7、8年ぶりに1位になっていますが、鹿児島はお墓用の花きの需要が多かったという事でした。これまで20年以上、鹿児島が1位だったのが、松江や島根に変わり、今年7年ぶりにまた1位に戻ったという状況です。このように消費を増やすことについては、福岡県花卉農協だけではなく、九州を挙げて活動をしています。フラワーバレンタインや11月22日のいい夫婦の日など、消費を増やす活動を生産団体や市場団体で取り組んでいて、全国の中では九州が一番進んでいると言われるくらいです。明日から花の国日本協議会で、花の消費拡大の活動を行いますが、花の消費を増やす活動を確実にやっています。

また、事務局の説明にもありましたように、香港への輸出を行っており、今年で4年目になります。3年前から始めて、昨年は福岡市港湾空港局の方々と輸出セミナーを行いました。また、香港の九龍島のモンコック地区にあるフラワーマーケット内のベリーフローリストという店舗で福岡産花きの展示会を実施し、同じモンコック地区にあるロイヤルプラザホテルで、展示会と、日本のデザイナーによるデモンストレーションを実施しました。さらにベジフルスタジアムと連携し、香港において福岡の青果物と併せて花の展示を行いました。今年度のプロモーションの計画では、11月に香港で展示会やデモンストレーションを実施する予定です。福岡県花卉農協では、別に上海とロシアのウラジオストクでも実施しています。上海は3年目、ロシアは今年で2年目になりますが、新潟の市場と一緒に実施しています。生産が安定するように私どもも経営指導を行っており、また、福岡市で作った花は確実に福岡県花卉農協で売っていく事に取り組んでおります。

【委員】

今のご説明にあったように、末端の外国にまで輸出されているというものがあつたらいいと思います。先日、イベントとして小学生のお仕事体験を行いました。福岡県花卉農協に多くの花を持ってきていただいて、花屋の体験でしたが、ものすごい人気で申込みがたくさんあり、子どものうちから花屋になって花に触れる体験をするという事ができて、大変良かったなと思いました。

議題

- (1) 「福岡市農林業振興施策について」の「森林・林業を取り巻く情勢と福岡市の現状」について
(事務局より説明)

【会長】

市民は森林への災害防止に対する期待があったと思いますが、今回の九州北部豪雨災害により、逆に流木が川を堰き止めたことによって被害が大きくなっています。治山が行き届いていないのかと思っています。

福岡市についてもお考えをいただきまして、ご意見をいただきたいと思っています。

【委員】

P56 地域産材の利用促進の福岡市の現状について「公共建築物等における木材利用の促進に関する法律」が制定されて8年程経ちますが、福岡市内の公共建築物のうち、木造化されている建築物がどれくらいあるのか実績をお尋ねします。

また、木材利用を推進する場合の課題として、設計とか建築技術者の育成が重要だと言われていますが、福岡市ではどのような施策で取り組んでいくのか、29年度はどう取り組むのか、お尋ねします。

【事務局】

実績につきましては、福岡市では平成25年度に策定した市内の公共建築物における木材の利用の促進に関する方針を推進しており、ベジフルスタジアムの多目的室や赤ちゃんの駅、西都小学校などで一部木質化を実施しています。また、木製手すりを公民館に設置しました。

課題ですが、今までは不燃化とされていたため、木材は使ってはいけないとされており、住宅では木造建築などあったのですが、中高層ビル等になるとまだまだ技術者が足りない状況であり、建築技術自体も建築基準法により基準化されておらず特別に許可が必要となる状況です。技術の向上と技術者の教育を進めていくという大きな課題がございます。平成29年度につきましては、いろいろな所に売り込みをかけているところで、木材を利用できる所があれば、ぜひ営業にいきたいと考えております。

【委員】

私は森林政策を専門としており、今回の朝倉郡東峰村にも何回か行き調査をしましたので、少しお話をさせていただきます。

流木被害が非常に多かったのが、極論で「山が怖い」「針葉樹じゃなくて広葉樹が良かった」「山の木を全部伐ってしまえ」などの意見が出てきているのですが、今回の雨は、6時間雨量が800mm、また24時間雨量が1,000mmを超え、これまでにない極端な降り方をしており、山が広葉樹であっても針葉樹であっても、挿し木でも実生（みしょう）であっても壊れたらろうという学会の見解も出されています。

今回の被害では、谷部が多く壊れています。崩壊地すべてに治山ダムなどをつくることは、予算的にも人的にも難しい状況です。今までの政策は間伐を行ったり等、人工林の機能を高めることでしたが、今後の気象変動を考え、今回のような雨が頻発することを前提として森林のあり方を考えなければいけないだろうと思っています。

そのためには、今回の総合計画の P45 に、「森林資源の有効活用や人工林と自然林の望ましい配置など、バランスの取れた森林づくり」を進めることが記載されていて、この部分が非常に重要になるのではないかと思います。

谷部分や急傾斜地、土壌がうすいところ等は、スギやヒノキから徐々に自然林に変えていくことが必要ではないかと思います。災害を全て抑えられることではないが、形状が複雑で重たい広葉樹は流下しにくいことから、災害規模を小さくすることには効果があると学術的にも指摘されていますので、危険な箇所や自然林にすべきところなど、市町村の森林整備計画で指定して、森林の配置など考える必要があるのではないかと思います。

【事務局】

これから検討いたしまして、よりよい森林行政を進めていきたいと思っています。

【委員】

福岡市も荒廃森林対策や間伐などを行っていますが、朝倉市の被害をみると、改めてもう少しチェックする必要があると思います。農業は鳥獣被害対策できめ細かく調査を含めて行っていますが、林地の鳥獣被害がどの程度あるかについての調査はまだ無いと思います。単に集中豪雨でドカ雨が降れば、どんな山でも崩れてしまう可能性があります。結構林地の中が、イノシシの被害で掘り荒らされていて、それが土砂災害の一つの要因であると思っています。そういったところまで含めた調査が必要ではないか検討の余地があると思います。

それから、福岡市もこれから伐採時期に入るので、それに合わせて人工林か広葉樹林化するかの施策を早く決めて指導していくなど、伐採は植林をすることが前提になるので、植林のあり方を考えておくことが重要だと思っています。

もう一つ、地域産材の供給体制を急いで作ってください。原田工場があるわけですから、そこをフルに稼働させて供給すれば、学校の教室の木質化など、5年10年計画を立ててすれば出来ると思います。林道を造ったところなど公有林から伐採したもので計画的に造っていくなど、技術者が不足している面もあるでしょうけど、そのようにすればうまく回っていく形を作れると思いますので、そういった施策に取り組む必要があると思います。

【事務局】

しっかりと取り組んでまいります。

報告

(1) 平成29年度重要施策及び新規事業について (事務局より説明)

【会長】

ただいまの説明を踏まえまして、ご意見等ございましたらお願いいたします。

【委員】

全国が人口減少している中で、福岡市は人口も伸び、税収も増えていまして、日本で一番元気な都市であると言われていの中で、農山漁村地域というのは過疎化や高齢化が進み子どもがいなくなっている状況です。そういう状況の中で農業をしっかりとやっていこうということで平成 29 年度から5か年の計画を作っています。それなのに平成 29 年度の予算が10数%減っています。

市民アンケートの中では、73%以上の市民の方が福岡市の農林水産業を守り育てていくべきだと言っていた中で、もう少し福岡市としてやる気を見せていただきたい。応援しているので、しっかりと予算要求していただきたい。

【事務局】

平成 29 年度の農林業関係予算が前年度と比べまして約4億円、10ポイントほど減少しておりますが、平成 28 年度におきましては、JA が取り組まれた水田農業共同施設の設置事業や、6次産業化に取り組まれる民間事業者が施設整備を行う際に、国の補助金を活用して助成を行った事業がございましたが、平成 29 年度はそういった施設整備に関する事業がなかったこと、また平成 28 年3月に閉鎖した農村センターの施設解体工事が平成 28 年度で終了したこと等、施設関係の進捗状況と絡みまして予算が減少したという状況がございます。

一方、そのような状況の中で、P3から記載しております新規事業として、ため池防災減災事業や、林地台帳整備事業などに約5千万円ほど投入するなど、農林業の振興に向けた予算措置にも努めているところでございます。

ただ、全体として農林業に関する予算が前年度を大きく下回ったことは事実でございます。今後とも農林水産局といたしまして、農林業の振興に向けた予算の獲得に努めてまいりたいと考えております。

【委員】

理由についてはわかる場所もありますが、福岡市の1次産業はかなり厳しい現状で、それをどうにかしていこうとか、予算があつたらこういった事業をやっていこうとか、個人的にもたくさん思いがありますし、皆さんも多分そういった思いを持っていると思います。私たちも応援していきますので、ぜひ来年度予算は今年よりも増えるぐらいの気持ちでしっかりと予算要求していただきたいと思います。

【委員】

私も今の意見と同じように思っています。

多様な担い手の確保・育成というところの拡充と新規について良いと思っていますが、やはり予算が少なすぎると思っています。今は若者が農村を目指す動きが大きくなっているという報道があります。背景には正規社員の機会がないとか賃金が上がらないなどあると思うんですが、これは大きなチャンスであり、活かさなければいけないと思っています。帰農者活躍支援事業は重要であると思いますが、農家の子弟の親元就農が若干減少していて、農業分野以外からの就農が増えていて、特にそれが39歳以下では上回っているという状況になっていると思います。ただそこを大きなチャンスと捉えるだけの予算にはなっていない状況です。そこをしっかりと捉えて、若者をしっかりと確保していくということを期待しておきたいと思えます。現状を含めて何かありましたらお願いします。

【事務局】

担い手不足についてでございますが、農村地域に若い新たな農業者に入ってきて、農村地域の活性化にもつなげていくことが非常に重要であると思っております。委員が言われたように、今若者の田舎回帰や、先ほどご説明いたしました「女性農業者ステップアップ事業」でも、公募すると多くの方が申込みをしてくださり、農業をやりたいという方が多くおられるなどニーズがあり、農業や農村地域の持つポテンシャルを感じています。就農を希望する方への情報発信、また、体験の場の提供などに取り組みまして、新たな担い手を確保していきたいと考えております。また、農業所得が非常に厳しいという状況もございますので、IoTの導入などによる生産性の向上や、6次産業化による付加価値の向上など、所得向上に向けて取り組んでまいりたいと考えております。委員の皆様からも暖かい応援メッセージをいただきましてありがとうございます。来年度の予算要求に向けて、農協と新しい取組みができないか協議を進めているところでございますのでよろしく申し上げます。

【会長】

事務局におかれましても、本日の意見をしっかりと踏まえて善処していただければと思います。

それでは、せっかくの機会ですので、その他として各団体の取組みなどありましたら、ご報告をお願いしたいと思います。

その他

【委員】

全国的に農業をしたいという若者が増えていますが、最終的に農地が無く農業が出来ないことがあります。私も就農希望者を指導していますが、いよいよ農業をしようかというときに農地がなくてあきらめてしまう例があります。そのような事がない

ように、市と農業委員会と農協が一体となって新規参入しやすい環境整備を行う必要があると思います。

また、「中山間地域等直接支払制度」について、漠然と中山間地域といっても、どこの地域を言っているのか分かりづらいため、どの地域にどのくらいの金額を支払っているかのデータを出して頂けたらと思います。

それから、野菜や花きの生産量が減少していますが、この大消費地で減少するような状況を作ってはいけないと思います。市と農協は、この大消費地にもっと生産を伸ばしていくような施策をしっかりと進めていく必要があります。

福岡市の農業委員の女性登用は全国でワースト2で、福岡市は女性登用が0でしたが、やっと今年6月に女性農業委員が誕生しました。また、バラ、ぶどう、いちご、米、畜産など、いろんな専業農家で頑張っている7名の女性農業者が福岡市長より任命され、「福岡市女性未来農業サポーター」に就任し、現地の声をあげられる環境整備もできましたので、皆様方と共に、福岡市の農業が活性化して、全国を引っ張っていくような都市型農業になるよう取り組んでいきたいと思います。

【委員】

9月1日から3日まで開催される「薬膳エキスポ」（後援：福岡市等）のご案内で、リーフレットをお配りしております。各世代ごとの薬膳のご提案など暮らしに役立つ内容となっております。

【会長】

たくさんのご意見をいただきありがとうございます。福岡市におかれましては、ご意見をしっかりと受け止めて、今後の福岡市の農林業の振興に活かして頂きたいと思います。

それでは、これをもちまして本日の審議を終了いたします。事務局に会議の進行をお返しいたします。

閉会

【事務局】

委員の皆様には、長時間のご審議ありがとうございました。

本日いただきました貴重なご意見を踏まえ、福岡市の農林業の振興に努めてまいります。

なお、本日の議事録につきましては、福岡市情報公開条例に基づき公開することとなっております。事務局において、本日の議事録を作成し、委員の皆様にご確認いただいた後、ホームページにて公表させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、平成29年度第1回農林業振興審議会を終了いたします。

皆様、どうもありがとうございました。